

今回は実施した3つの研修をご紹介します。

① ホリデースクール Vol.9 「さくらのワルツ」 講師・田邊会長

3月28日 瑞江コミュニティ会館

始めに「さくら」の起源についてのお話がありました。

1904年、プッチーニのオペラ「蝶々夫人」でさくらの旋律が取り入れられたことから世界的に知られたそうです。その音源を聞かせていただきました。

佐藤秀廊曲集の「さくらのワルツ」の解説文に「七十一小節目頃からクライマックス…」とありますが、実際は60小節のこと。その11小節の誤差は昭和18年版「さくらのワルツ」の楽譜に前奏が元になっているというお話もありました。

演奏について、大事なことはベースや分散和音を入れても旋律を美しく引き立つようにすることが重要です。

自分でテンポ感などを研究、工夫して表現する。そのためには長唄や民謡なども聞いたりすると参考になるそうです。

分散和音のコツについても教えて頂きました。

分散和音もベースも、旋律が静かなので、行進曲のように大きな音で入らないこと、練習ではテンポを落として正確に出すことが大切と学びました。

曲集の楽譜の中で3点訂正があります。

☆3小節目のオクターブの範囲は4小節の最初のファまで

☆64小節目の分散和音は65小節と同じであること

☆112小節のレの音は無し、ファの単音だけをを伸ばす

受講者からは

部分的な練習方法についての質問や、途中で口の渴きで滑らなくなる時の対策などの質問がありました。

この日はあいにくの雨でしたが

会場でも、リモートの方からも熱心な質問があり、会場は熱気に包まれていました。

② 音見つけスクール Vol.10 「さんぽ」 上 明子先生

4月4日 北小岩コミュニティ会館

今回はジブリの、子供から大人まで親しまれている曲、「さんぽ」です。

「この対旋律にはネコバスをイメージした音がありますね」とか

「主旋律と対旋律の会話が出来ています」など

上先生が一人一人の作品を見ながら良い点を話してくださいます。

また、「主旋律に接近する時あり、離れる時あり、を考えると音楽に広がりができますよ」や、「次の日に考え直してみると違ったアイデアが浮かんできますよ」など上先生

からたくさんの方の心に残るコメントを頂きました。

いつものように会場の参加者は自分の作った編曲を演奏して披露して頂き、リモートの方の編曲は上 雅子さんがピアノで弾いて下さいました。

同じ曲でもいろんな編曲があるので、聞くのがとても楽しく、関心を持って聞きます。上先生が添削された箇所を、元の直す前と比べて交互に、雅子さんがピアノでくれます。参加者はその音の違いに集中して耳を傾けます。

作品を直してもらったリモートの方も、作品の変化について、やりとりしながらあっという間に時間が過ぎていきます。

参加者からは「編曲する回数が増えるにつれて、少しずつ編曲に抵抗がなくなり、楽しくなった」や

「時間を忘れて音見つけをしています」という声を聞いています。

先生の言葉のように「自分の想いを楽譜に込める」を胸に参加者は編曲を学んでいます。今年度は、「エーデルワイス」「大きな古時計」「上を向いて歩こう」「ハッピバースデー」「さくらさくら」の編曲を学びます。

どうぞ、大勢の参加をお待ちしています。

尚、下記から、実際の動画を見ることができます。とても楽しそうでしょ？

[IMG 5754 - YouTube](#)

[IMG 5748 - YouTube](#)

[IMG 5749 - YouTube](#)

[IMG 5750 - YouTube](#)

[IMG 5751 - YouTube](#)

[IMG 5752 - YouTube](#)

[IMG 5753 - YouTube](#)

### ③ ホリデースクール Vol.10 「荒城の月」 大田原研修局長兼事務局長 5月9日 参加者全員リモート

この講座は「荒城の月」をより理解して頂くための講座です。

講座では、パソコン画面に大河ドラマのシーンや、五線譜を見ながらメロディを聞いたり、会津のお醤油店に掛けられた書などが紹介され、多方面から学ぶことができました。

「荒城の月」の城とは、青葉城と言われていますが、本当は会津鶴ヶ城だそうです。

滝廉太郎が元々作曲したのは、ミミラシドシラーファファミレミーのレに#が付いていたそうです。後に日本風にするためレの#を取ったそうですが、比べて聞くと#レにす

ると、どことなく物悲しく聞こえました。

曲の歌詞は、何と！大河ドラマ「八重の桜」綾瀬はるかが演じた、新島八重の言葉から、きているそうです。

鶴ヶ城落城の前夜、新島八重は「明日の夜は何国の誰かながむらん なれし御城に残す月かけ」という歌を、お城の壁に残したそうです。「へえー」と思うお話も多く、楽しみながら聞くことができました。

また、自然的短音階、和声的短音階、旋律的短音階、ジプシー音階についての説明もあり、大変勉強になりました。

この講座を受ける前は「荒城の月」をどんな風に吹くか考えた時、おぼろ月夜から煌々と輝く月など色々イメージしながら演奏していました。講座を受けたことで、背景には戦いの重く暗い歴史の込められた曲だったのだと知ることができました。